

# ス1) 新型コロナウイルス感染症対応に関するアンケート

令和2年度 富山県訪問看護ステーションサポート事業(高岡圏)

もみじ訪問看護ステーション

## ス2)

### 1. 目的

新型コロナウイルス感染症対応の進捗状況を明確にし、課題の抽出、解決策を構築する

### 2. 調査方法

• 対象者：高岡圏訪問看護ステーション 27か所

• 期間：令和2年8月5日～8月21日

• 調査方法：

①質問紙を一斉メールで配信し、FAX・メールで送信してもらった

②基本情報は令和元年度富山県訪問看護ステーション実態調査から抽出した

• 回収率： 100%

## ス3) 事業所の基本情報

### 1) 事業所の所在地 (総数27事業所)

高岡市	氷見市	射水市
12	5	10

### 2) 住所別開設法人の内訳

	医療法人	社団・財団法人	協同組合	営利法人	学校法人
高岡	2	2	1	7	0
氷見市	0	1	0	4	0
射水市	2	1	0	6	1

ス4)

### 3) 住所別各事業所の開設期間

	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上
高岡市	2	1	3	3	0	3
氷見市	2	2	0	0	0	1
射水市	0	3	3	2	1	1

### 4) 住所別従業者数

- ① 高岡市 看護師総数 61.76人 療法士総数 7人  
1事業者あたりの平均は看護師 5.14人 療法士 7人
- ② 氷見市 看護師総数 18.99人 療法士総数 2人  
1事業者あたりの平均は看護師 3.8人 療法士 0.4人
- ③ 射水市 看護師総数 46.88人 療法士総数 13人  
1事業者あたりの平均は看護師 4.7人 療法士 1.3人

# ス5) アンケート内容

令和2年8月5日

各位

高岡圏訪問看護サポート事業  
もみじ訪問看護ステーション  
管理者 増田 千春

## 訪問看護ステーションにおける新型コロナウイルス感染症対応に関するアンケート

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が危惧されるなか、皆様いかがお過ごしでしょうか。今後第2波、第3波の心配もあり、訪問看護ステーションとしてどのように関わっていくか対応力が問われています。地元のステーション同士が、withコロナ時代に向けて協力、連携していけたらと思っております。つきましては、お忙しい中とは思いますが、以下のアンケートに回答いただくと幸いです。共に知恵を絞り乗り切っていきましょう。

%

1. 感染症に対する(新型コロナウイルス感染症)に関する対応計画、マニュアルがある	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
2. 地域で感染が広まった際に、訪問の調整、一時中止などを行う利用者の基準・区分の設定がある	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
3. スタッフ・利用者・家族が感染症又は濃厚接触者となった場合の事業継続・縮小・休止の判断基準の設定がある	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
4. 訪問看護ステーションの感染症対策を利用者・家族に紙面で説明している	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
5. 感染症等により、他の訪問に代替してサービスを提供してもらう場合、訪問同士の連携体制が確保されている	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
6. zoomを使用した、ビデオ会議を主催、もしくは参加したことがある	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ

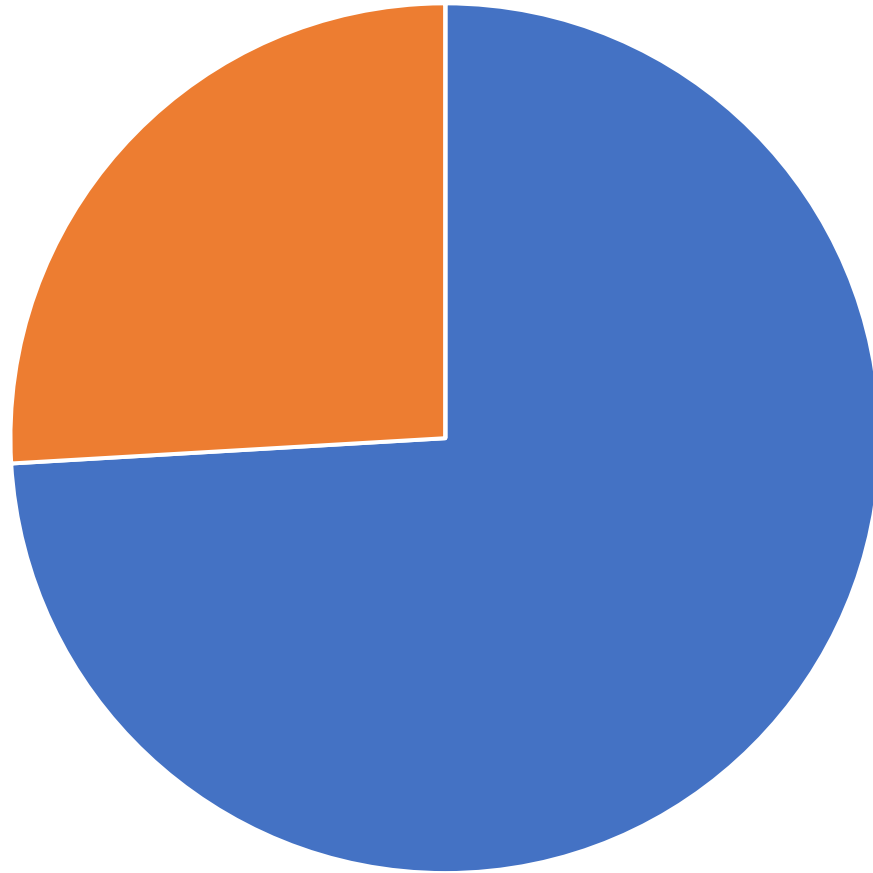
令和2年8月12日までにメールかFAXにてご返送ください。

mail [info@momijihk.co.jp](mailto:info@momijihk.co.jp)

FAX 0766-31-5551 もみじ訪問看護ステーション

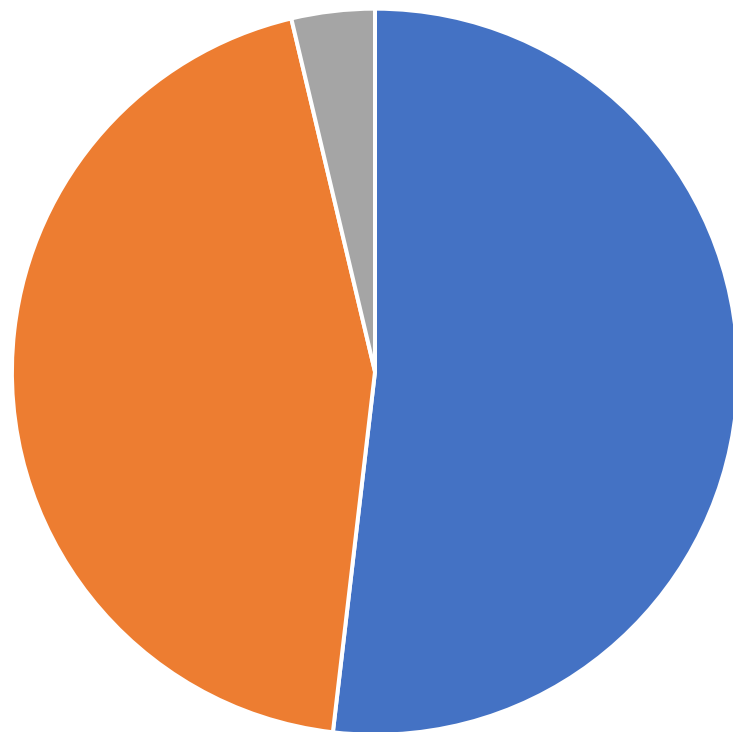
ステーション名 \_\_\_\_\_

ス6) 1. 新型コロナウイルス感染症に関する対応計画、マニュアルがある



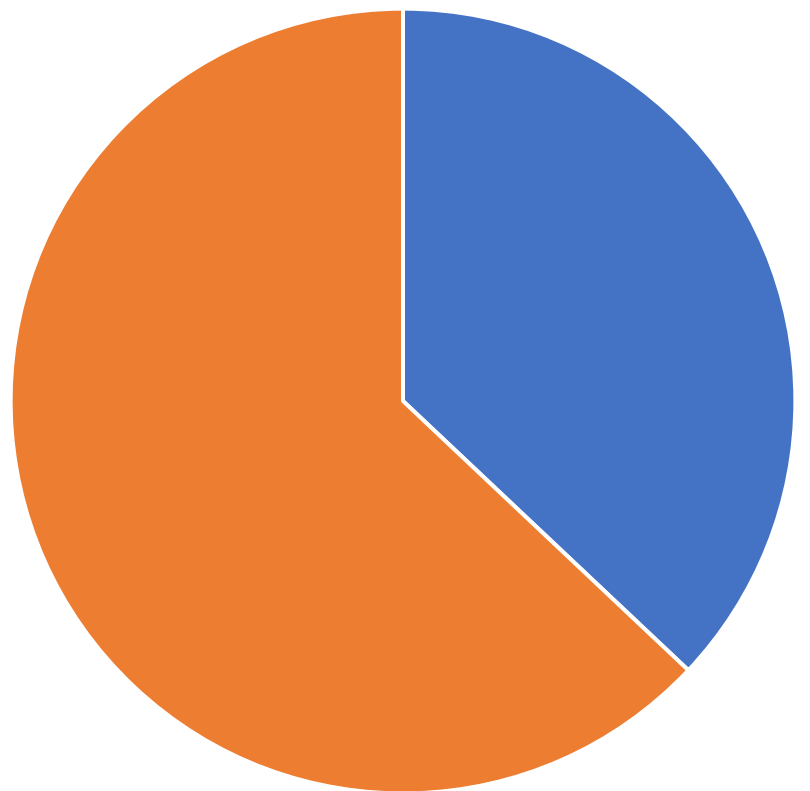
■ はい ■ いいえ

ス7) 2. 地域で広まった際に、訪問の調整、一時中止などを行う利用者の基準・区分がある



■ はい ■ いいえ ■ その他

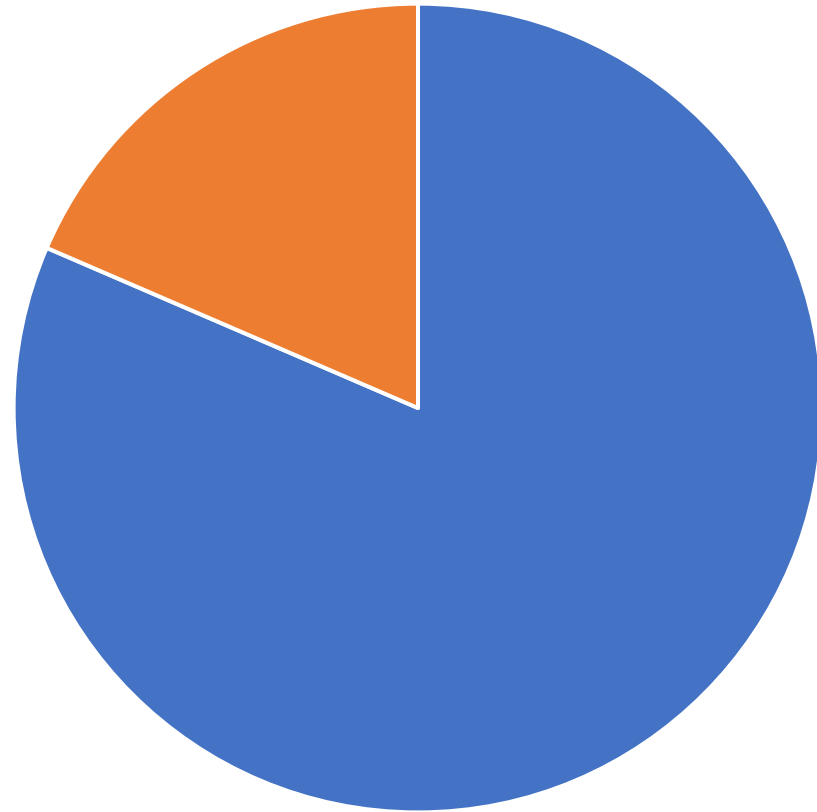
ス8) 3. スタッフ・利用者・家族が感染症又は濃厚接触者となった場合の事業継続・縮小・休止の判断基準の設定がある



■ はい ■ いいえ

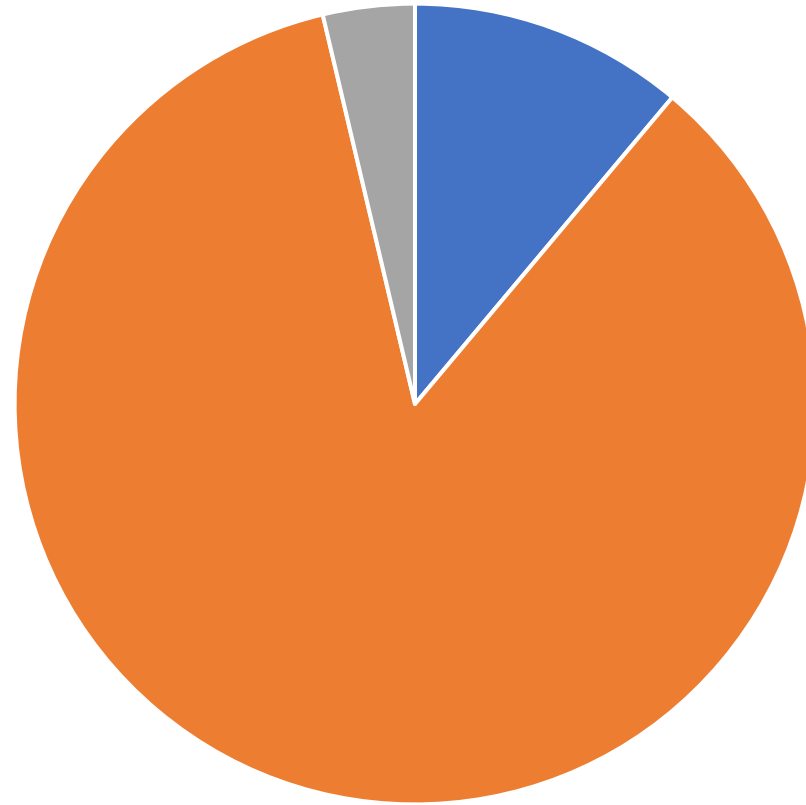


ス9) 4. 訪問看護ステーションの感染症対策を利用者・家族に紙面で説明している



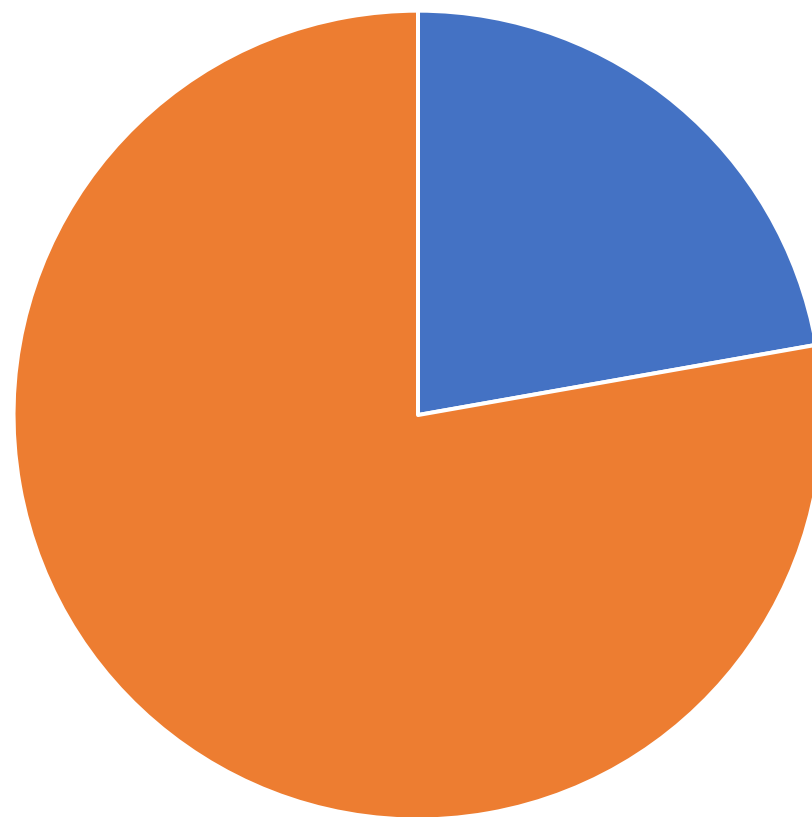
■ はい ■ いいえ

ス10) 5. 感染症などにより、他の訪看に  
代替えしてもらう場合、訪看同士の連携体制  
が確保されている



■ はい ■ いいえ ■ その他

ス11) 6. ZOOMを利用した、ビデオ会議  
を主催、もしくは参加したことがある



■ はい ■ いいえ

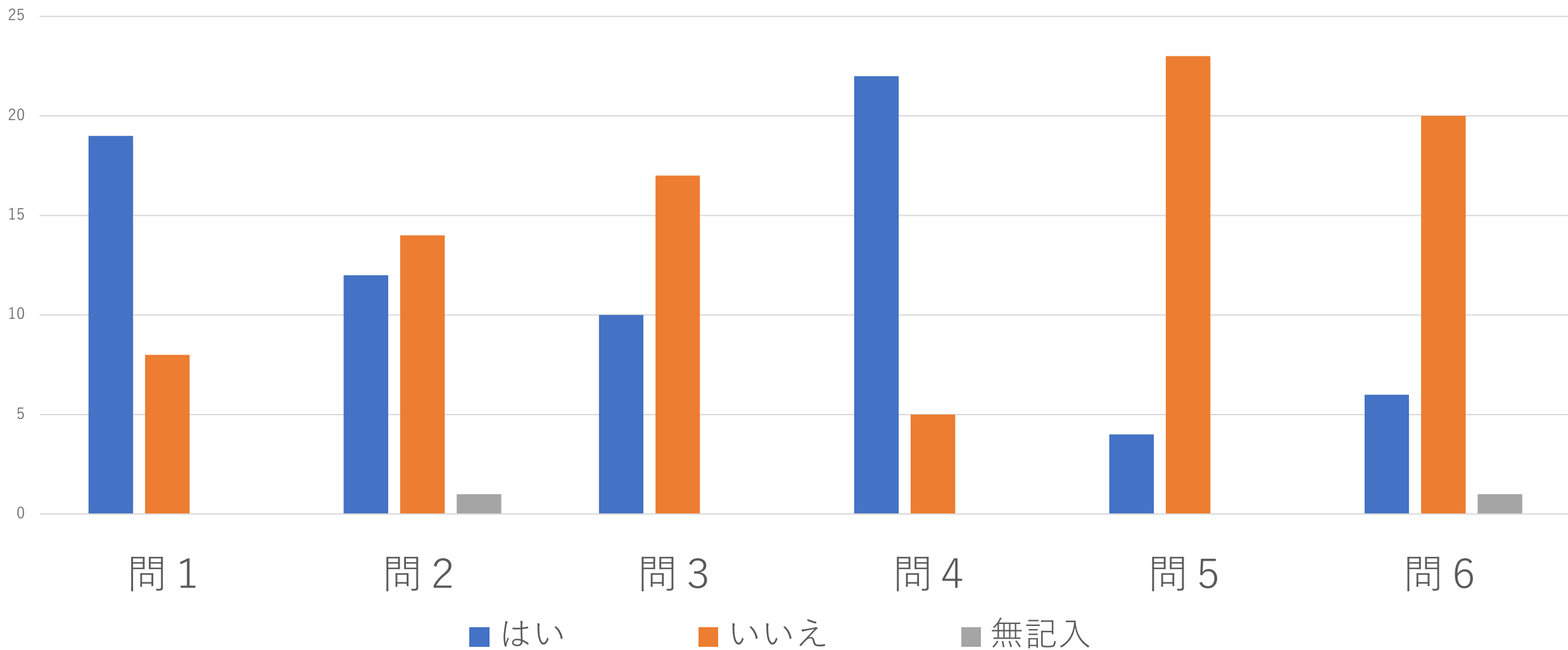
ス12)

# 1. 新型コロナウイルス感染症対応に関するアンケート結果表

合計	問1	問2	問3	問4	問5	問6
はい	19	12	10	22	4	6
%	70	45	37	82	15	23
いいえ	8	14	17	5	23	20
%	30	52	63	18	85	73
無記入	0	1	0	0	0	1
%	0	4	0	0	0	4
合計	問1	問2	問3	問4	問5	問6
はい	19	12	10	22	4	6
いいえ	8	14	17	5	23	20
無記入	0	1	0	0	0	1

ス13)

## 2. 新型コロナウイルス感染症対応に関するアンケート結果



# 結果

1. 高岡圏内の訪問看護ステーションは27か所で、富山県内（78カ所）の28.9%を占めている。高岡市は12か所・射水市10カ所・氷見市5か所である

2. 開設法人別訪問看護ステーション数は「営利法人」が17か所と最も多く、63%をしめている。医療法人と社団・財団法人がそれぞれ4か所で30%を占めていた。共同組合・学校法人がそれぞれ1か所であった

3. 開設期間別訪問看護ステーション数は「1年以上2年未満」が4か所(15%)・「2年以上3年未満」6か所(22%)・「3年以上5年未満」6か所(22%)・「5年以上10年未満」5か所(19%)・「10年以上15年未満」1か所(4%)・「15年以上」は5か所(19%)であった。「5年未満」は16か所で(59%)で「5年以上」は11か所で(41%)であった。氷見市では「5年未満」が5か所のうち4か所であった

4. 訪問看護ステーションの従事者数（常勤換算）看護職員は平均4.76人 療法士は平均0.81人であった。住所別にみると高岡市の平均看護師数は5.14人療法士数平均0.58人、射水市の平均看護師数は4.7人療法士数平均1.3人、氷見市の平均看護師数は3.8人療法士数は0.4人であった

## 5. アンケート結果

1) 「新型コロナウイルス感染症に関する対応計画、マニュアルの有無」については「有り」が19カ所で70%、「無し」は8カ所で30%であった

2) 「地域で感染が広まった際に、訪問の調整、一時中止などを行う利用者の基準・区分の設定の有無」については「有り」は12カ所で45%、「無し」は14カ所で52%であった。無記入が1カ所あった

3) 「スタッフ・利用者・家族が感染者又は濃厚接触者となった場合の事業継続・縮小・休止の判断基準の設定の有無」については「有り」は10か所で37%、「無し」は17カ所で63%であった。対応については、高岡保健所の指示に従う事になると想定される

4) 「自社の感染症対策を利用者・家族に紙面で説明の有無」については「有り」は22か所で82%、「無し」は5か所で18%であった

5) 「感染症等により、他の訪問看護ステーションに代替えしてサービスを提供してもらう場合訪問看護ステーション同士の連携体制の有無」については、「有り」は4か所で15%、「無し」23か所で85%であった

6) 「zoomを使用した、ビデオ会議を主催、もしくは参加の有無」について「有り」は6か所で23%、「無し」は20か所で73%、無記入が1か所であった。ビデオ会議の体験は少ないがwithコロナ時代に対応できる機会とする



# まとめ

1. コロナウィルス感染症に関する対応計画やマニュアルは70%ができている
2. 利用者に対する訪問調整やトリアージは45%はできているが55%はできていなかった
3. 感染者・濃厚接触者になった場合の事業継続の縮小・休止等の判断基準があるのは37%で、63%は無しであった。感染者が出た場合は高岡保健所の指示に従う事が想定される。
4. 利用者に対する自社の感染症対策を紙面で説明が82%はできている

5) 自社が感染症で休止になった場合に他の訪問看護ステーションに利用者を引き受けるための他訪問看護ステーション同士の連携体制はわずか15%でした。残り85%は休止状態になった時の代替サービス体制はできていない現状である。日本訪問看護財団が実施したアンケート（令和2年4月16日～24日）結果では、実際に、近隣の訪問看護ステーションとの利用者以移等、連携対応が必要になったのは16件(3.8%)と報告されている。今後は近隣の訪問看護ステーションはもちろんのこと地域の医師会・行政などとの連携が重要な課題と考える

6) ビデオ会議の経験者は23%と少ないが、これからのwithコロナ時代に対応できる機会ととらえサポート事業で取り組んでいきたい